

こども
みらい
風物詩

豊かな自然に囲まれて育つ子どもたちは、

五穀豊穡ごこくほうじょうを神に感謝する気持ちを

幼少のころから肌で感じ取り、生活している。

景色は日々刻々と鮮やかな赤や黄に変わり、

田んぼには積み藁わらが並び、もみ殻を焼く煙が立ち昇る。

子どもたちは、野道に落ちている木の葉や

どんぐりを拾い集め、

秋を十分に楽しんでいる。





A u t u m n

秋



泉保育所の秋祭り

夏の日焼けを残したあどけない瞳で芋を掘り、マラソン大会、村民文化祭など多くの催事さいじに参加する子どもたち。その顔は、秋晴れの空のようにすがすがしく、たくましい成長の跡を残している。秋祭りの神輿みこしを担ぎ、伝統舞踊を披露ひろうする姿は、自信に満ち溢れている。村の人々を見ていると寛容で優しく、不平を言わず、言葉少なく生きていた祖父母の姿を思い出す。それは素朴な自然観とふるさとの原風景がここにあるからだ。今年も豊年満作への感謝をこめて、村々の神社がわきたつ。賑やかな祭囃子まやしと人のぬくもりを感じるひととき。



冬



初霜の便りとともに氷雨が

家々の屋根に降りそそぐ初冬。

一年の無病息災に感謝し、

新しい年を迎え、

郷里に戻った家族との

束の間の語らいの時間をすごす。

白い朝もやと冬枯れの景色に

ふるさとのやさしさがみえる。



川の流れも凍りつき
ゆるりとした叙情詩になる。